

まもる 通信

vol.18
2016年1月

ともに創ろう 明日の袋井 地域の未来

いいます
提案

やります
実行

みせます
実績

発行／袋井市議会議員 寺田 守

袋井市久能1810-11 TEL&FAX:0538(44)1351

✉ mamorut@yr.tnc.ne.jp ☞ http://www.mamoru-t.net



平成二十八年

新春

地方創成へ本格始動の年

平成28年 年頭にあたって

明けましておめでとうございます。

今年、袋井市のこれからの10年、市の将来を見据えた「第2次袋井市総合計画」が始まる年となっています。その基本構想では、「活力と創造で、未来を先取る日本一健康文化都市」をまちの将来像に掲げています。

折しも政府による地方創生戦略を受け、袋井版『総合戦略』「輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生」が策定されました。

これから将来、社会は少子高齢化や人口減少で深刻な問題になると指摘されています。しかし、ここは何としても食い止め、“袋井発”の元気を生み出していかねばなりません。

年を重ねても生き甲斐をもって暮らせるまち、若者が魅力を感じ夢を実現できるまち、女性の社会進出を助け、安心して子育てができるまち、そんなまちづくりを進めていきたいと思えます。

さて、今年の市政で注目したい事業をあげてみたいと思えます。

まず一つ目は、県の内陸フロンティア事業に採択された豊沢地区開発です。その工事が、今年から3年間にかけて行われます。豊沢開発は約8haの工業団地を造成するもので、造成地から出る60万m³の残土は浅羽海岸の防潮堤建設に使われます。停滞の感のあった市の企業誘致ですが、同じく県のフロンティア事業に採択された小笠山山麓開発と共に、新たな突破口になって欲しいと思えます。



▲造成工事が始まる豊沢地区開発



▲新たに建設される袋井市観光協会事務所



▲袋井宿開設記念祭のメイン会場となる静橋北付近



▲2019年ラグビーワールドカップの会場となるエコパスタジアム

二つ目は、総合体育館建設事業です。この事業では、これまで市がとってきた手法とは異なり、PFI方式を採用しようとしています。この方式は、設計・建設・維持管理・運営という一連の事業を個々に発注するのではなく、資金調達を含め一括して民間企業に発注するものです。この方式で民間企業の自由な提案を引き出し、効率的な事業推進を図ろうとしています。平成32年度の供用開始に向け、審議は大詰めを迎えています。

三つ目は、観光事業です。今3月の完成をめざし、JR袋井駅舎の横に新しい袋井市観光協会事務所の建設工事が進められています。これからの観光事業はシティープロモーション、まちの顔づくりにも大きく影響すると言われています。遠州三山は、当市の観光の重要スポットでもありますが、去年は可睡齋の雛祭りに5万人の集客があり、今年も規模を大きくして始まっています。当市への訪問客を増やし、市民の郷土への誇りを醸成するためにも、今後ますます重要な事業になってくると思われます。

最後に四つ目は、いよいよ本番を迎える袋井宿開設四〇〇年記念事業です。400年前の元和2年、東海道の27番目「どまん中」に開設された袋井宿、この記念事業では10月30日(日)には、これまでの宿場の歴史を時代絵巻パレードで表現しようという取組も進められています。先の東海道開設記念とは違って、今回は市が自力で、市民の総意を挙げて取り組む事業となっています。テーマは、

「時を超えて 夢をつなぐ」、まさに今の本市にとって時宜にかなった表現ではないでしょうか。是非とも成功させ、袋井市民の元気を発信させていきたいものです。

今年1年の特徴的な事業をあげてみました。3年後の2019年には、ラグビーワールドカップがエコパを舞台に開催されることも決まりました。活力溢れるまちをつくるため、皆さんと共に頑張っていきたいと思えますので今年も宜しくお願い致します。